

国内外の研修センターOBが地域を担う人材に 各国で頻発する自然災害に備えた植林や復興支援も



ミャンマー 貧困の先にある未来へ

3年間にわたる外務省の「日本NGO連携無償資金協力」の事業では、農村地域の貧困住民を対象に主な生計手段である農業の生産性向上やそのほかの収入源となる家畜飼育支援プログラムを実施。貧困状態から脱却し、持続的な生計手段を得た住民は、今後も自助努力で事業を継続していく。



タイ 負の連鎖を断ち切るために

北部タイにおいて、これまでの環境保全・啓発活動に加え養蜂・養豚・野菜栽培など森の恵みを活かした生計向上プロジェクトが新たにスタート。焼き畑による単一作物栽培が中心だった村人の収入と環境保全意識の向上に寄与し、貧困と森林破壊による負のサイクルからの脱却を目指す。



フィリピン 破壊された水源林の復活

2013年にフィリピンを襲ったスーパー台風により、ほとんどの木々が枯れてしまったパナイ島アホイ町の水源林。現地要請を受け、暴風雨にも耐える在来種をまず植え、その樹間にコーヒーや果樹など、住民の生活向上に資する木々を植栽。被災前より強靱かつ豊かな森が生まれつつある。



インドネシア 女性らしくいきいきと

農村地域の主婦たちを対象とした加工食品の製造・販売に向けた研修がスタート。日本からは食品加工の専門家を短期で派遣。1年目に習得した農業技術とその生産物を活かし、女性ならではの視点による健康への配慮やパッケージデザインも意識した商品開発が進んでいる。



フィリピン 寒村を救ったマングローブ林

首都マニラからバスで約10時間、さらに街道から1時間のところにある北カマリネス州の寒村ホセパンガニバン。過去8年間にわたって住民と共にマングローブを植え続けてきた結果、少しずつではあるが、魚介類が戻り、高潮から住民の生活や財産を守る森に成長。



フィジー 地域との連携を深めて

巨大サイクロンにより多大な被害を受けたフィジー。オイスカでは食糧難を見越して、野菜の種子の配布といった緊急支援を実施。センターを卒業したOBが中心となってふるさとの復興に励む姿が見られ、今後も地域とのつながりを軸に活動を発展させていく。

半世紀以上継続されている人材育成によって育った青年たちが各国の地域開発・環境保全プロジェクトにおいて中核的役割を担い、近年頻発する自然災害時にも力を発揮しています。農村リーダーの育成は、成果がすぐには見られない、息の長い取り組みですが、その目的を理解し、ご支援くださる皆さまにあらためて感謝申し上げます。

昨今、研修生OBたちが出身国、あるいは第三国でプロジェクトを担うケースが増え、各国での日本NGO連携無償資金協力事業でも重要な役割を果たしています。開発途上国の貧困地域への裨益を重要な目的とする同事業において、オイスカがこれまでOBを「つなぎ役」として地域に築いてきたネットワークが、事業目的の達成を容易なものとしています。彼ら、彼女らの、地域におけるリーダーシップこそがオイスカをオイスカたらしめている所以ともいえ、さらに本事業での経験がOBを成長させる相乗効果をもたらしている様子もうかがえます。

一方で日本のシニア世代の貢献も見逃すことができません。専門家として農業開発や食品加工などの分野において数々のアドバイスをいただいています。こうした人間の有機的なつながりが総合的な開発を可能にしています。



2016年度 海外開発協力事業 主な支援企業・団体・個人ならびに助成団体

国名	活動	主な支援企業・団体（「子供の森」計画支援企業・団体含む）
バングラデシュ	マングローブ植林	東京海上日動火災保険、UAゼンセン
中国	砂漠化防止	味の素、CKD、ユニオン印刷
フィジー	マングローブ植林	東京海上日動火災保険
	サンゴ礁保全	住友生命保険
	「子供の森」計画	オルビス、ベルマーク教育助成財団
インドネシア	マングローブ植林	東京海上日動火災保険、東芝、ダンロップ、JCB
	人材育成等	エプソン販売、三菱樹脂、外務省
	「子供の森」計画	コニカミノルタ労働組合、四国電力総連、国土緑化推進機構、イオン環境財団
マレーシア	「子供の森」計画	化学総連
ミャンマー	人材育成	三菱商事、外務省
	教育支援	長尾ライオンズクラブ、香川東推進協議会
	「子供の森」計画	東銀リース、トヨタ自動車
バブアニューギニア	熱帯雨林保全・植林	コスモ石油エコカード基金
フィリピン	マングローブ植林	東京海上日動火災保険、九州ハートネット21
	植林	コスモ石油エコカード基金、電力総連、メディアグローバルリンクス、三井物産、外務省
	「子供の森」計画	電力総連、京セラ労働組合、JEC連合、テルモ
スリランカ	「子供の森」計画	トヨタ自動車
タイ	マングローブ植林	東京海上日動火災保険、住友化学グループ・住友化学労働組合、九州電力労働組合、松中信彦
	植林	花王、CKD、外務省
	「子供の森」計画	ニコン、前田建設工業、積水ハウスマッチングプログラムの会
ウズベキスタン	砂漠化防止	三菱商事
複数国支援	植林および「子供の森」計画	副友会、住友化学グループ・住友化学労働組合、ピームス、マネーパートナーズ、長門屋商店、デリシャス、東急ホテルズ、UAゼンセン、味の素労働組合、ヤクルト本社、東芝労働組合府中支部、CKD、アイ・エイチ・ディ協同組合、地球産業文化研究所、三菱自動車、山口工業

企業・団体等は略称、個人名は敬称略とさせていただきます

2016年度 主な海外事業拠点スタッフおよび受け入れ研修生数

国名	センター・事務所	駐在員	現地スタッフ	研修生（短期含む）
バングラデシュ	バングラデシュ研修センター	1	11	9
	チッタゴン・マングローブ植林プロジェクト	—	4	—
中国	内モンゴル阿拉善沙漠生態研究研修センター	—	5	—
カンボジア	カンボジア事務所	—	3	2
フィジー	フィジー農業開発プロジェクト事務所	3	7	29
インド	南インド事務所	—	28	—
	北インド事務所	—	8	—
インドネシア	スカブミ研修センター	2	68	205
	カラマンガニアル研修センター	—	11	158
	ジャカルタ事務所	—	2	—
マレーシア	KPD/オイスカ青年研修センター	—	16	18
ミャンマー	農村開発研修センター	1	32	23
	ヤンゴン事務所	1	1	—
フィリピン	マニラ事務所	1	3	—
	バゴ研修センター	1	20	15
	ヌエバピスカヤ植林プロジェクト	—	2	—
	パラワン研修センター	—	2	1
	ダバオ研修センター	—	5	8
	ルクバン研修センター	—	2	76
	アブラ農業研修センター	—	3	14
	ヌエバエシハ研修センター	—	7	12
バブアニューギニア	ラバウル・エコテック研修センター	1	18	98
スリランカ	スリランカ事務所	—	7	—
タイ	北部タイ緑化プロジェクト	1	4	—
	ラノーン・マングローブ植林プロジェクト	—	1	—
	スリン・「子供の森」計画環境保護センター	—	1	—
	「子供の森」計画	—	1	—
	バンコク事務所	1	5	—

※2017年3月31日現在／現地スタッフにはボランティアも含まれます

2016年度 環境保全プロジェクト活動実績（主なプロジェクトのみ掲載）

国名	プロジェクト名	開始年	現地カウンターパート	2016年度 植林面積 (ha)	累計 植林面積 (ha)
バングラデシュ	チッタゴン・マングローブ植林プロジェクト	1992	バングラデシュ研修生OB会	92	852
中国	内モンゴル砂漠化防止プロジェクト	2000	内蒙古自治区阿拉善盟政府	634	1,719
インドネシア	マングローブ植林プロジェクト	1995	各県の森林局など	156	2,912
フィリピン	南ルソン・マングローブ植林プロジェクト	2004	環境天然資源省・住民委員会	50	404
タイ	北部タイ緑化プロジェクト	2006	オイスカ・タイ総局	21	85
	ラノーン・マングローブ植林プロジェクト	2000	天然資源・環境省海洋・沿岸資源局	32	1,869